

(1) - - 3 - 3 管理目標樹形の設定

- ・ 概ねの樹高・枝張り比が定まり、緑化空間特性からの樹形への影響が明らかになると最終的な目標樹形が設定できる。
- ・ 具体的には、緑化空間特性からの影響が特でない場合は、四方への枝張りが均等な「標準タイプ」になり、歩道幅員が極端に狭い場合は、歩道側の枝張りが小さく、車道側が大きくなる「歩道側・車道側不均一タイプ」(片枝樹形タイプ)になり、道路幅員が広くボリューム感のある緑量が求められる場合は、道路と平行方向の枝張りを大きくする「道路平行方向拡大タイプ」になる。
- ・ 以下に四方への枝張りが均等な「標準タイプ」の樹形の算出方法を示す。

●歩道幅員と樹高・枝張り比等からの樹形の算出方法

- ①歩道幅員と沿道土地利用とのクリアランス、植栽位置(歩車道境界からの位置)から、その路線において伸長可能な枝張りを算出する。

$$[\text{枝張り (W)} = (\text{歩道幅員} - dx - C) \times 2]$$

- ②樹種別の標準樹形の樹高・枝張り比から、算出した枝張りに対応した樹高を算出する。

